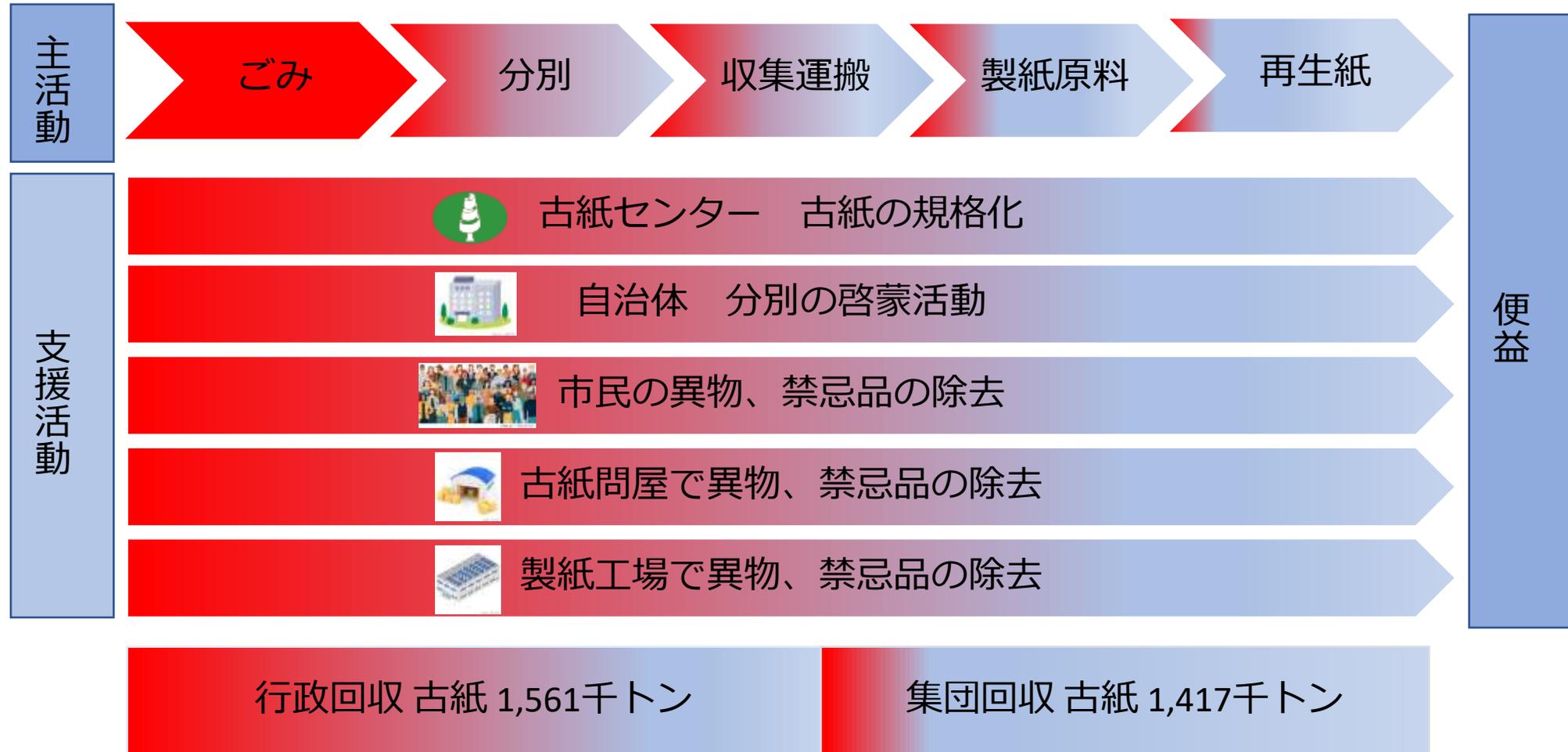




古紙問屋 集荷の現場から

全国製紙原料商工組合連合会 渉外広報委員長
株式会社 斎藤英次商店 代表取締役社長 斎藤大介

ごみ減のバリューチェーン



環境省 一般廃棄物の排出及び処理状況 令和3年度

自治体職員 の情熱でできている

- 雑がみ回収を拡大、浸透、持続するためには、自治体職員の情熱！これが結論です



～ 現状分析と自治体の機能 ～

現状と問題

- ・ 雑がみ分別の必要性は理解するが、紙の種類が多様化しており、どれが雑がみとして資源化できるのか判別に苦慮する市民が多い

機能（取り組み）

- ・ 分別の継続的な啓蒙・啓発活動の実施

分別ガイド・禁忌品の啓蒙を行ってきた。これまではごみ減が必要であること、正しい分別、ごみ出しのルールなどを教えるため。今は、分別する人を増やすための動機づけに変化している。

単に啓発を繰り返すだけでなく、個人にとって何か得になること、ためになることに繋げて辛抱強く伝え続けること。伝え方はわかりやすい絵を用いて絶え間なく情報を更新すること。



集荷の現場で起きていること

- 雑がみを入れる「紙袋」がない。
- 紙のストロー、ICタグ（RFID）のように、新種の紙が増えている。新種は雑がみか、可燃ごみか判断できない。
- 段ボールを畳んで十字に縛ることを市民にお願いしているが、市民は、それが苦痛であり、お願いできない。
- 段ボールが家に溜まる、ごみが家に溜まると同じ。市民の不満が増加している。
- 市民は、商品、原料とっていない。資源ごみ・ごみだと思っている。職員もそのように考えている。

雑がみ誕生

- 容器リサイクル法の施行、紙製容器包装の分別回収が始まった。
- 新聞・チラシ、雑誌、段ボール、牛乳パック、その他紙類の5品目になった。
- その他紙類によって異物や禁忌品が増えて、品質問題になった。
- 品質保持し、その他紙類のリサイクル促進につなげることを目的として、雑がみが誕生した。



課題 問題提起

- ① リサイクルマークの誤認識
- ② 雑がみの分別はわかりにくい。
むずかしい。
- ③ 無理です。しぼることができない。紙袋がない。



リサイクルマーク





- 防水加工された紙（紙コップ、紙皿、紙製のカップ麺容器、紙製のヨーグルト容器など）
- プラスチックフィルムやアルミ箔などを貼り合せた複合素材の紙
- 金・銀などの金属が箔押しされた紙
- 芳香紙、臭いのついた紙（洗剤・石鹼・線香などの紙製包装・紙箱・段ボール箱など）
- 食品残渣のついた紙・紙箱

紙製容器リサイクルマークの誤認識



- プラスチックフィルムやアルミ箔などを貼り合せた複合素材の紙
- 芳香紙、臭いのついた紙（洗剤・石鹼・線香などの紙製包装・紙箱・段ボール箱など）
- カバンや靴などの詰物（緩衝材として使用済み昇華転写紙が再使用されることが多い）
- 昇華転写紙（捺染紙、アイロンプリント紙、主に絵柄など布地に加熱してプリントする際に使われる紙）
- 感熱性発泡紙（立体コピー紙、主に点字関係で使用されるもので、熱を加えたところが盛り上がる紙）
- シールが貼られたはがきや封筒は、シールを取り除くこと
- プラスチックフィルムのついたティッシュ取り出し口や窓枠封筒は、その部分を取り除くこと。
- プラスチックフィルムが貼られた雑誌の表紙などは、その部分の表紙などを取り除くこと。
- 紙や紙箱に貼られた粘着テープは、取り除くこと。
- 雑がみの排出方法
大きさを揃えて（細かいものは紙袋に入れて）、紙ひもなどで十文字に縛る。

わかりにくい むずかしい

課題解決策 Universal Design for 3Rs



ユニバーサルデザイン7原則

1. どんな人でも公平に使えること。(Equitable use / 公平な利用)
2. 使う上での柔軟性があること。
(Flexibility in use / 利用における柔軟性)
3. 使い方が簡単で自明であること。(Simple and intuitive / 単純で直感的な利用)
4. 必要な情報がすぐに分かること。(Perceptible information / 認知できる情報)
5. 簡単なミスが危険につながらないこと。(Tolerance for error / うっかりミスの許容)
6. 身体への過度な負担を必要としないこと。(Low physical effort / 少ない身体的な努力)
7. 利用のための十分な大きさと空間が確保されていること。(Size and space for approach and use / 接近や利用のためのサイズと空間)

自治体、古紙問屋、製紙工場、古紙センターの4者、それぞれの立場を尊重して、謙虚な姿勢で問うべき

分別は、どんな人でも公平に使えている。

多様な生活様式に合わせたリサイクルを選択できる。

単純で直観的な分別ができる。

リサイクル情報が容易に理解できる。

身体に負担のない分別になっている。

明るい未来

- 可燃ごみの10%から20%は、リサイクルできる紙ごみ。
- リサイクルできたら経済効果は、人口10万人あたり年間1億円。
- 経済も地域社会も地球環境も、貢献できる。

